

## 第2回「元気なまちづくり部会」会議録

日時：平成16年11月28日（日）

午前10時～12時

場所：市役所3階301議室

### 出席委員12名

- 1号委員 木ノ本寛、島田洋行  
2号委員（各種団体）岩本克巳、北之橋貴美枝、澤口寛、中谷卓司  
2号委員（公募） 大田貞、坂部嘉紀、谷口幸生、馬場博子、寶楽陸寛  
3号委員 福井逸治（部会長）

### 欠席委員1名

- 3号委員 加藤司（副部会長）

### 事務局

- 企画総務部企画経営室長：大給孝明  
企画総務部企画経営室企画グループ主幹：中野隆夫  
企画総務部企画経営室企画グループ主査：小川祥  
企画総務部企画経営室企画グループ主査：山口麻子

### ㈱日本総合研究所

- 研究員：高橋秀文

#### 【大給企画経営室長】

委員の皆様には何かとお忙しい中、会議にご出席頂きましてありがとうございます。

ただ今から第2回目の「元気なまちづくり」部会会議を開催させていただきます。本日、加藤副部会長が所要のためご欠席の連絡が入っておりますのでよろしくお願い致します。本日の会議につきましては前回に引き続き公開という形にさせていただきます。今のところ傍聴の申し込みはございませんがよろしくお願い致します。早速ではございますが福井部会長から進行の方よろしくお願い致します。

#### 【福井部会長】

早速、第2回の「元気なまちづくり」部会を開催したいと思います。前回、この「河内長野市第4次総合計画基本構想骨子(案)」を基本的なテキストとして使いましたが、本日もその続きでございますので、お持ちでない方は事務局から借りて、見ていただきたいと思います。本日は12時までと予定しております。審議は11時50分頃までとし、次回の日程等をつめる作業をして12時ジャストには終わりたいと思っておりますのでご協力のほどよろしくお願い致します。

まず前回ご欠席でした澤口委員さんに自己紹介なりご挨拶をお願いしたいと思います。

#### 【澤口委員】

澤口寛でございます。今回は農業祭等でどうしても抜けられず失礼させていただき、誠に申し訳ないことでした。私は、ご存知のように農業関係の代表で参加させていただいた所でございます。前回、第3次の審議会におきまして色々と議論された中で、その一員として参加させていただきました。それらの経験を活かしながら、今回も出来るだけ自分の意見等も発言させていただき、協力できればと考えておる所でございます。

河内長野はご存知のように非常に自然に恵まれたまちでございます。ただ、戦後、急速な開発の波に乗りまして大きく発展したまちでもあるわけです。しかし過去を振り返りますと、非常に歴史が豊かでもあります。古代の色々な歴史と近代の色々な問題を兼ね合わせた都市になるかと考えます。

前回は非常に問題になりましたが、やはり今後の河内長野市を考えていく上では、若い人が定着出来る、希望を持って住めるまちづくりが一番重要である、これが今も変わらないのではないかと考えております。また、農業方面から考えてゆきますと、やはり市民に安全な食料を供給してゆくこと、自給率等につきましては細かな数字ではございませんが、河内長野市の農業生産自給率は40%を切っている状況でございます。そういった面から今後も、より安全な農産物の供給に、農業者として努力して道を開いていくことを、考えておるところでございます。この審議会を通じまして皆様方の色々なご意見をお聞きさせていただいて、農業関係の取組みについても大いに参考にさせていただきたいと考えておりますのでよろしくお願い致します。

#### 【福井部会長】

ありがとうございました。お手元に前回の第1回部会の会議録が送られておるかと思いますが、それらは長いのですけれども、参照しながら審議したいと思っております。今回は基本構想骨子(案)の第1章第2章のとっかかりに入ったぐらいで時間切れとなったかと思っております。本日はその後を続けまして第3章まで、踏み込んでご議論ねがいたいと考えております。全体的な構想を申しますと、12月に、後で日程についてはご意見を伺いますが、第3回目の部会を開催させていただきまして、そこで実質的な議論は出尽くした形にできればよいと考えております。そして来年に入るとの第4回部会では、当部会の意見を相当程度まとめた形に出来ればよいかなと、これは希望的観測でありますので、そのように出来るかは保証の限りではございませんが、そのくらいのことを想定しておる次第でございます。

本日は前回の続きということで、どなたからでもご自由に発言していただいてよいと思うのですが。

#### 【寶楽委員】

1ページの「まちづくりのしくみの構想」ですが、第4次は、「市民参加、市民との協働による『市民みんなの計画』として策定する」と規定されているのですが、この「市民みんなの計画」の「市民」とは、どういう市民を対象としているのか、市民の理想像みたいなものがあれば書くべきかなと思ったのですけれども、例えば国の基本計画・基本方針が書いてある日本国憲法には国のあり方を示し国民のあり方が書いてあるじゃないですか。今回ここにそれを書いてみるのも、河内長野市が何を理想とし、何を求め、何をすべきなどの、抽象的であっても何かあれば、市民のみんながまちを作っていく意識が持てるのではないかと思ったのですが。いかがでしょうか。

どういう形で書くのか、までは自分自身詰めていないのですけれども。

【福井部会長】

河内長野市の市民として理想的な市民、確か市民憲章を私、この間初めて読ませていただいて、なかなか高邁なことが書いてあるなと感心をしたのですが。あれをもう少し具体化して総合計画に書くべきであるというご意見ですか。

【寶楽委員】

はい。市民みんなの計画の「市民」が少し分かりにくいかと。

【福井部会長】

理想的な市民とは何かというのはなかなか難しいと思うのですが。総合計画のひとつのあり方として、そういうふうな文言、一項目が、そういうふうな高邁な理念に沿って総合計画を作ったのであるという、寶楽委員の意見ですが、皆さんいかがなものでございましょうか。そういう時に理想的市民の考え方みたいなものを入れよという意味でしょう。

いかがでしょう。そんなものは入れる必要はないとか、入れるとしたらこういう形でとか。

【大田委員】

おっしゃることは確かにそうだと思います。ただ、この総合計画自身としていきなり部分部分に入るのではなく、総合的な意味でそうした理想的な考え方を作り上げるべきではないかなと思うのです。その中で、今おっしゃっていただいたような内容を含めていくのはどうかと。

【福井部会長】

総合計画の中に入れることにはご賛成と。

【大田委員】

はい、賛成です。

【福井部会長】

そういう個々の所に入れるのではなく、もし憲法前文のようなものがあるとすれば、総合計画の前文的な、全体的なものを書いた中に入れると。

【大田委員】

憲法のようなものを作るのは、大変なんですよ。それはちょっと難しいので、総合計画の一番前段に、総合計画の前段が理念なのですが、その理念の一番最初の文言として入れていってはどうかと。

【福井部会長】

このことに関して、つまり市民の理想像のような事を入れるべしということに関して他の皆さんのご意見はどうでしょう。反対の方はないとは思いますが。

では、他の件についてご発言があればどうぞ。今回は人口の問題・教育の問題・市街地再開発の問

題・自然資源の活用とか、土地基盤の整備など出たのでございますが。

前回出たところで大田委員さんの提言であったかと思いますが、「さとまち」というひとつの言葉を総合計画の目指すべき姿として、特色ある総合計画にすべしという意見が出たのですが。言葉としては魅力的な言葉と言えるのですが、その内容を出来たらみなさんのご意見でもう少しこの部会で詰めたと思います。特色を出せというのは河内長野市としての「売り」、セールスポイントである、そういうご意見もあったかと思いますが、これが市の売りであるという特色を出すと。それはおそらく「さとまち」という言葉でイメージされるのではないかという所まで前回は議論があったと思うのですが、では「さとまち」とは何か。

#### 【中谷委員】

「さとまち」という言葉は良いわけなんですけども。いかにも牧歌的な気がするわけなのです。今の河内長野市を見ると、そういう牧歌的と言うには少し変わりつつあるのではないかということで。むしろ山に囲まれた一つの都市であるという認識の方がむしろ山に親しんでいただけると。と言うのは、私が言いたいのはやはり河内長野市で、まとまった山林を移植されたということのをこれから活かしていただきたいという希望の下にそういう話をしているわけで、個人的なケチな気持ちは持っておりません。全体で楽しんでいただく、今、現にそんな時代になりつつあるのか、時代がそのように進行しかけているという感じでございます、「さとやま」と言うのは確かに、ほんとに田舎の方の牧歌的と申しますか、癒しと言いますか、そういうイメージが私の中にありますので、決して悪いと言っているわけではございません。ただ、もう少し大きくしてもらって、拡大していただいて、そういう意味で山の話をしているわけです。

#### 【福井部会長】

はい。今ご定義いただいたのは「山に囲まれた都市」。昔からの言葉で言うと山と都市とはだいたい違うもの、対立するというのが普通なのですが、しかし例えば数年前に私初めて南海電車に乗ってずっと行きますと、林間田園都市、山ではないが、林と田んぼの間に都市がある。だから林と田んぼに囲まれた都市と。今の中谷委員の言葉になぞらえて言うと山に囲まれた都市ではなくて、あの駅の名前は林と田んぼに囲まれた都市と。それら是对立するものではなくて、現代の都市というイメージから考えると 山とか、田んぼとか、林というものは都市と対立するものではなくて、共存共栄すべきものであるという考えが。私、南海の駅が、そういう名前が出来た理由は知りませんが、そういうふうにも思うわけでございますけれども。山に囲まれた都市というのは、ご意見をどうぞ。

#### 【大田委員】

一応「さとまち」という言葉を例えばで提案させていただいたのですが、中谷委員のおっしゃっていただいた事とほぼ同じことなのです。山に囲まれてそうした都市があると、それは山に囲まれた都市という言葉を出してしまったのでは、今、部会長がおっしゃったように田舎というものがそのまま出てしまう可能性がある。都市ではなくなってしまう。そういう意味で一つの言葉として出したのであると。

この言葉自身がもう少し変化していてもいいと思うのです。ひとつの性格としては、そうした半分牧歌的な形が、都市のあり方が河内長野市には必要ではないかと。要するに現在の日本の、一つの

言葉で言えばスピード社会、IT社会、そのようなものに一緒に乗っていてもしょうがないのではないかと。例えば工業をとらまえた時に、工業を振興させていくのかどうか。総合的に振興できるのかどうか。非常に難しいと思うのですね。農業や林業、観光業ならそれを振興する手立ては色々ある。だから河内長野の持っているひとつの特性としては、いわゆるベッドタウンという形と、大阪府のリゾートゾーンとしての、行楽というようなもの。あるいはその住んでいる人たちが消費する商業であるとかサービスであるとか、というようなものを一つの振興の目玉に置いていかないとしょうがないのではないかと。その意味で考えた時に、河内長野とは、言葉は色々違うが「さとまち」のような、そうした考え方の中で進めてゆかなければならないと考えるのですが。

#### 【福井部会長】

言葉の問題だけに拘ってもしょうがないのですが、やはり総合計画というものの、最終的に文章に書かれるわけですので、「さとまち」「山に囲まれた都市」と2つの表現方法が出ている訳ですが、このことについて他の委員さんは何か。

#### 【島田委員】

私は河内長野に生まれ育ったわけではなく、いわゆる移住民といいますが、よそからきた人間ではあるのですが、若い頃からいくつか引っ越しをして、いくつかのまちを見てきました。その中で河内長野の印象、現状をどう考えているかと言いますと、まず南部は山に囲まれています。一部で住宅団地が点在しております。それと昔からの旧村があります。あと駅の周りに市街地が形成されておると。ざっくりとしたそういう印象なんですけれども。

そこで思いますのは、今後、牧歌的な地方都市と言いますか、田舎、自然を重視した田舎町を目指すのか、そうではなく発展した都市化を目指すのか、極論するとそうなるかと思うのですが。私が思いますに山間部の自然は自然で残していけばいいと。住宅地は住宅地で当然よさがありますし。市街地については、もっと発展できるのではないかと考えています。第3次総合計画でも言われていますが、ある程度ゾーンを大切に、ここは山林を守ってここという場所と決める、ここは住宅団地としてもっと発展できるではないかという場所を決める。駅前をもっともっと人が集まれるような、俗っぽく言えば、もっと飲食関係を増やせるように市街地を形成していくとか。そういうそれぞれの特色を地域ごとにゾーン分けしていったらどうかと。ですから最初のイメージとして、林間都市と言うと少しイメージが違うのかなと。田舎・山林の方はまだまだ山林のままでしょうし、市街地はまた違う趣がありますので、それはそれで河内長野の良さだと思いますので、大きな地域をそれぞれのゾーンを大切にしながら自然環境に配慮したまちづくりと言いますか。

それともう1点が、工業振興、産業振興が難しいのではないかという意味も。工業団地がありませんから、まあ大きな所はそんなにいくつも無いのですが、私は自然環境に配慮した工場進出が可能だと思っています。煙をモクモク出す工場ではなく、企業進出にしても自然環境に配慮した企業進出が出来ると思いますし、工業振興にしても産業振興にしてももっと積極的にやっていける所だと思っていますので、まだまだ可能性は秘めていると。ですから、林間都市のイメージではなく、それぞれの、住宅団地のよさ、市街地のよさ、山林のよさを生かしながら拡大発展させていくというイメージがいいのではないかと思います。

## 【大田委員】

今のお話の中で私は2つ考え方を言いたいのです。1つは市街地をどうするかということですが、河内長野市の場合、市街地の真中を高野街道が走っているのです。これにまつわる色々な思い入れが市民の中にあると。そしたら、市街地を開発していく形であっても、その中でやはり高野街道というような、ひとつの原風景的なものを生かしていく開発、それからまたそれにまとまったようなコミュニティをつくっていかねばならないのではないかと。その意味で、そのように言えば「さとまち」と言うか牧歌的というか、と言うようなこともあてはまってくるのではないかと。単に住宅は住宅、工業は工業、中心市街地は中心市街地として分けてしまえば、どうしても好きなように開発できていくわけです。全体が一つのまとまりになっていかないことがあるのではないかと思います。それからいわゆる産業振興の中の工業という部分ですが、この考え方には2つあると思います。現在の工業を活性化するか、それとも新規に工業というものを引っ張ってきて、河内長野の工業はこんなにいいですよとするのか。どちらなのか。たぶん市民の望んでいるのは現在の既存工業を活性化してほしいと、新しいものを引っ張って来いというのではないのではないかと。そのあたりをはっきりさせないと、単に工業振興、市の経済基盤としての工業の活性化というのであれば新しいものを引っ張ってくればいいのですが、そんな考え方はこれからは必要ないのではないかと。むしろ工業団地的なものテクノポータ的なもの、それらは全国でも大きなテクノポートはたくさんあるのですが、一部はうまく回転しているが、空き地も多い。これから河内長野の中にそんなものを造るべきじゃない。ただ一つの考え方として、ある業界に特化したような団地、滋賀県の甲賀市ならいわゆる薬品工業が集まっている、そうした特化がこの町に必要ならやればいい。しかし何でもいいから引っ張ってきて、美原町の工業団地のように使い道がなくなったから電化製品屋がそこを使いますというようになってしまってもしょうがない。これは工業の振興ではない。だからそれを論議する前に既存なのか新規なのか、そのへんを明確にする必要があるのではないかと思います。

## 【福井部会長】

少々いきなり飛ぶようでございますが、基本構造骨子(案)の11ページを見ていただきたいです。これは都市構造ということで具体的に郊外居住ゾーンとか市街地ゾーンなどゾーン分けがありまして、一方ではアクセス性の向上という、交通網等のことも書いてあるわけです。今私たちが議論していることは、おそらく、これらのゾーンをアクセスの向上も観光客の呼び込みも含めて、全部含めて、どういったらいいかということ議論しているのではないかと思います。ひとつの地域社会ですからこのようにゾーン分けしても、これらが別個に存在するわけではないわけです。1つの社会として人的にも物的にも鉄道においてもお互いに関連がある。お互いに影響しあいながら存在するわけですので。それらも考えて当部会の意見としては、これを全部ひっくるめて「さとまち」と言うのか、あるいは「山に囲まれた都市」というのか、どういうのがよいのかという事がおそらく結論だと思っております。そういう事を議論する上でこれまで、前回の議論で私が注目していただきたいのは、10ページの「人口の問題」の活動人口の考え方、それから教育施設と観光施設というもの、教育行政と観光行政ですが、例えばもし森林資源を活用しての教育というものがあるなら、そういう教育行政。それはまた観光行政にもつながる。観光はひとつの産業ですから、それを産業基盤と言えばそれも産業基盤である。というような具体的な要素をずっと考えてゆきますと、都市と山間を対立するものとして捉えるのではなくて、まさに共存共栄するものであるとして捉えると、その全体を示すこれがセ

ールスポイントであるという言葉も生まれてくるのではないかと。そういうものを生み出すことを願って更に議論を深めていきたいのですけれども。大田委員どうぞ。

#### 【大田委員】

くれぐれも言っておきたいのですが、「さとまち」という言葉を出した、ですがこの言葉に拘っているのではないのです。このイメージというものを捕まえてほしいと。「さとまち」が不適切なら、別のよく似た言葉をあてはめていただいているのではないかと。もちろんその内容の中にはこれから議論する内容が含まれているということであってほしいわけです。もう1つ、私自身がこの河内長野市をどういうまちにしたいかと思うことを申し上げていきますと、河内長野市とはある意味で大阪府の水源地なのです。だから川がたくさんあります。この川というものをもう少し行楽の意味合いで活用できないだろうかという事があります。同時にまた、観光資源についても、観光資源はポツポツとあるけれども、その前段になる、例えば門前的な地区というものが、観光的な内容になってないわけです。もちろん観光というものを近代開発にするか、いわゆる原風景のまま保存して観光開発とするかでは違って来るわけです。私としては原風景的なもので考えていっていいのではないかと。たとえて言えば、せいぜい箕面市の箕面の滝に行く前の、あの道路の開発程度のものでやっていけばいいのではないかと。それに中心市街地の高野街道というもの、この3つをつないでゆくと一つの何らかの言葉が出てくると思っています。

#### 【谷口委員】

私も「さと」という言葉は非常にやわらかい響きで、人里というような、人が集まる、ぬくもりのある感覚のイメージがあると思うのです。私自身のイメージ的には、遊学・自然文化の里というイメージで河内長野を捉えているわけですが、字は遊び学ぶ自然文化の里です。このあいだ「再発見河内長野 100年前のタウンガイド」という文化財関係でちょっと行って来たのですけれども、これが拡大写真です。まあヘルシートライアングルシティと言いますか、三角おむすびの形で、よく見えるのですが。昔、コピーライターの糸井重里さんが「おいしい生活」というのを使ってはりましたが、私は暮らしたい地域、「おいしいまち」と言いますか、色んなことが味わえるまちだなというふうにしたのです。一応ここに活性化のヒントもたくさん出ていますし、具体的にはウメボシ1個のおむすびみたいなイメージで見ていたのです、長年。河内長野はたいしたことないなあと、朝早く出て夜遅く帰って来る生活でしたので。実際見ますと、色んな要素が入っていて、味わえば味わうほど、「おいしい生活」が得られるのではないかと。市民も色んな形で、さとづくりとかさと自慢ですね、そういう形で自分の好きなところを見つけて、それに関していけるという町だなと。そういうことで、さとづくりとさと自慢、現代風に言えばコミュニティですよ。そういう形で見ていくと、三日市の方などもおもしろいなと思ったのです。三日市宿場といって「毎月三のつく日に市場が開かれることに困む名前ですが、記録としては残っていません云々」とあるのですが、これはやはり三日市の再開発も今やっていますが、あれも単なる商業ビルを建てるだけではもったいない。新しい機能・働きを開発するという意味で見れば地域の活性センター的な役割で、あそこで色んな人が集って色んなことをやっている、そのように三日市も資源があるなど。モックルウォークでも三日市から観心寺、延命寺の辺まで歩いたのですが、あの間に赤い屋根の水車工場、大同製薬ですかを通ったのですが、あそここの背景というのは、紅葉があっぴったりの観光スポットだと思ったのです。あそこを産業面の取

り組みから言えば、水車資料館というような位置付けで、あそこもぐるっとまちじゅう博物館に。その中で見れば、もう少しあそこの水車がらみの事業を何か、事業といいますか、現代風に水力発電で電気をひくなど自然エネルギーでいけば、温暖化対策の面でもひとつのスポットになると思います。色んな形で相乗効果が上がるなど。そういう感じと共に三日市に油屋という、高野街道の、最近まで何かやっていたのですね、私知らなかったのですが。みどりと史跡の里、錦溪温泉、これはパンフレットですが... こんなのが今残っていたらものすごい大きな資産だと。

【北之橋委員】

私はその温泉街で育ちました。アブラヤ・・ご陣屋です。殿様が泊まる宿です。

【福井部会長】

今もあるのですか。

【北之橋委員】

今でも案内板がありますよ。なりたないから、絵画教室に貸したり。

【谷口委員】

昔はその水車が旅館の名物で、パンフレット見たら、ありますね。そういう面で見ると、水車も、昔は100以上産業用の水車があったそうですし、今に合わないかも知れないけど、何かこう一生懸命働いているイメージがありますね、森の水車のコットンコットンという歌にあるような。あれも今風に残しながら、あそこで地場の農産物を売る形とか、あるいは水車鍋とかあったのですかね、レシピは知らないですが、それを復活してあそこで名物料理として、毎日は無理でも土日開業として、そういう形でひとつの、やすらぎの道と言いますか、観心寺へ行く、延命寺へ行くという形でやっていけば非常に色んな形の、高野街道とは違った形の谷筋の、魅力ある、いわゆる里になると思いますし、商業センターがらみで言いますと、もう少しコミュニティビジネス特区という絡みで、この間も三日市公民館の活動展を見に行ったのです。すると手作りの素晴らしい作品が展示されていたのですが、制約があって。あそこで作ったものは売ってはいけないという、そういう一つの法律があるのでしょうか。それはそれで、春夏秋3回くらい三の付く日の定期市をして、その時は手作り品を、地元の人を作ったということで、イベント的にやるとか。テナントの人にもそれに合わせてセールをやるとか。例えば春の三日市フェアとかいう発想でやっていけば、色んな人が集うし、モックルウォークの時に地元の人が手作りの小物をちりめん細工など、古い布を使って軒先を借りて売っておられたのです。そういうものを作って楽しんでおられる人は地域にはたくさんいると思うのです。これからのシニアの人にも向いているし。そういう人が多少の活動資金なりを得る形でコミュニティビジネス特区という形で、商工会が窓口になって段取りしてやるなど色んな方法があると思いますが。その中で地域の人に関って、多少元気な人、ビジネス的な発想の人はその中で仲間を増やしていけば、いわゆる手作り製家内工業ですよね。問屋製家内工業ではなく。そういう形で地域の人が少しビジネス的な形に関るとか。趣味やボランティアが好きな人はそちらでもいいですし。本格的なビジネスをやりたい人は一つのインクベーション的な機能を持ったチャレンジオフィスを構えてみるとか、そういう形で再開発ビルも機能してゆけば、広い意味では遊学自然文化の里なんですけれども、そこへ農業林業の人が



関りながら、遊学自然の森でもいいですし、遊学エコ農園でもいいと思うのです。

先日エコ農産物のことで河内長野にはないと理解していたのですが、モックルウォークの時に門林もんばやし先生に会いまして、門林さんはエコ農産物をつくっておられて、河内長野でも3人おられるそうです。やはりそういう形で、安全安心健康の農産物、これはものすごく大きな需要がありますし、規模を大きくすれば市外にも売れると。そのようにものすごく色々な要素を含んだ町というようなことで、単なるおにぎりではなく、五目飯のおにぎりといいますか、味わうと本当においしい。具をひとつずつ見れば全国的にはたいしたことはないかもしれませんが、それぞれが誇れる町といいますか、何かに関して居場所がある、そのような形で組み立てていけば、楽しい町になるのではないかという感想を持ちました。

【福井部会長】

遊学自然文化の里と。自然と文化は一応切れるんですね。自然文化という意味ではなくて。

【谷口委員】

はい、切れます。

【福井部会長】

遊学という言葉は、本来の言葉の意味からすると学校教育を受けているものには関係ないようなイメージがありますが、その点は、いかがでしょうか。全体的に生徒児童も含めてということですか。

【谷口委員】

遊び学び、総合学習。大人もそうですし。我々も原体験的には天見などは一つの遊びの場だったわけですよ。シニアもそんなに抵抗感もないと思いますし。むしろ今の若いジュニアの世代もそういう所に親しみながら、虫を怖がるようなのではなしに。

【福井部会長】

それであれば相当全体的に、前回竇楽委員が言われたような若い人達のボランティアの活動とか、そういうものも今のコンセプトには含まれてくるわけですね。それから一方で、高齢になっても元気な人はいっぱいいるのだというような前回の発言もありましたし。例えばそういう歴史文化的なことでもボランティアで観光案内をすとか。それを商売に役立てていってもいいですが、とりあえずは無料でそういう説明をする人が地域にいる。そうやっていけば観光政策と教育政策が、渾然一体となって、つまり河内長野市に教育おける教育というものが、河内長野市に在住する子弟だけを対象にするのではなくて、大阪府はもちろん他府県からでも子供達を呼んで来ると、河内長野市は人口が少ないのでよそから呼んでくると。ですから昼間人口は膨大なものです。というような構想にもつながると。そういう意味で「さとまち」というとある程度は若干閉鎖的な感じがするが、遊学という言葉によって、よそからも来るのだという、旅、旅行する要素も加わってくる。観光行政とはすなわちそういうことですね、移動してもらう。地元の人が地元へ行くだけの井の中の蛙ではなくて、というのが遊学、そういう意味で広がりもある言葉かなと思います。

今の議論で出来たら事務局に補足してほしいのですが、大田委員の方から河内長野は大阪府の水源

であると。これは常識的には川を養うのは森であり、海を養うのが川なので。ですから、石川など、目に見える川以外にも地下水にも問題もあるかと思うのですが。私共の常識では大阪府の水源はだいたい北の琵琶湖から大半は来ているのであって、南の方に関西新空港を造るときには水が足りないで南の和歌山県紀ノ川から分水されているという予備知識はあるのですが。大阪府の水源という点で河内長野市が果たしている役割というか、何かそういうデータはございますか。

【大給企画経営室長】

確かに大阪府の水がめということで。水源を守ろうということで、水源保護条例は河内長野で制定しております。

【福井部会長】

この間中谷委員が言われた、膨大な山を買ったというのも水源涵養の...

【大給企画経営室長】

もちろんそうです。

【木ノ本委員】

ちょっといいですか。今おっしゃっている水ですが。水は当然河内長野と富田林、石川の流域で滝畑ダムがありますが、あの水道水源は河内長野と富田林で半々ですね。それでいずれにしても水源の町であることは確かです。今自己水源で、市の水道の7割くらいですね。夏場で不足の場合は府営水道が入っています。

それともう一つ先ほど非常に色々なご意見をいただいて、素晴らしいなと思って聞かせていただいたんですが、いずれにしてもやはり10年間の河内長野のまちづくり戦略プランの骨子を作るという観点からすれば、学ぶ...自然がたくさんあるということで、このグラウンドを利用して教育全般、あるいは文化も含めて学ぶということが非常に大切です。体験学習が。それは河内長野市民、あるいは大阪府下の若人も含めて自然体験学習の場であるべきではないかなと。それはなぜならば、今コミュニティが崩壊しているからこそ、色んな問題が起こっています。だからコミュニティをどうやってもう一度立てなおすか。そしてより、人と人との絆と言うのですか、お互いの思いやりを育めるような温か味のある町というのが非常に大切ではないか。それを一つの結ぶキーワードが河内長野にほとんど色んな形で先ほどおっしゃっていただきました色んな要素が河内長野の財産として 現実にあると。

ずっと暮らしていることによって、色んなよい所があるにも関わらず見過ごしている部分を、客観的に見ていただいて、こんないい財産があるのに何も活用していないな、というふうな、先ほどの色んなご意見をいただいて、これは私は非常にありがたいご意見ではないかなと。だからそこら辺をひとつのやはり結ぶキーワードとして活用したらいいのではないかなと。

ただ観光は非常に大事です。商工会の会長もおられますし私共も観光にも非常に大切でありますけれども、そうしたらもっと根本的な問題として考えてみるならば、切り口は観光でも悪いことはないのですが、観光よりもむしろ先ほどの水源も山林も含めて、観光目的となってきましたら例えば滝畑などにも土日何千人何万人も来られる時期もありますが、結果的には水源を汚すという形になりま

す。水源に人が入るといことはね。だから逆にそこに学びということが入ることによって、自然体験、体験学習することによって、水の大切さ自然の大切さを実体験として、遊びながら学んでいただくということにつながっていくのではないかなと。

で、もう一つは人口の問題はやはり非常に大切でしてね。現状維持とするか減ってもしようがないとするのか、それともやはり減少することはまちの活力を失う、だからどんなことがあっても少なくともプラス思考で増やすという観点に立つのか。そこらが 10 年の戦略としては非常に重要な所かなと。その辺の目標をきっちり定めておかないと、まち全体のあり方が変わってくる。私個人的には絶対減らすような、自然現象に甘んじると言うか、委ねてしまうのは反対です。やはりプラス思考で考えて行かなければならないのではないかと。

#### 【福井部会長】

では、これまでだいたい「さとまち」という言葉をきっかけに、全体のイメージを表す言葉を議論していただいたのですが、だいたいの議論は出尽くしたようですので、今ご提案がありましたように、ここで少し人口問題に絞ってご議論を深めていただけたらと思います。

従来出ておるように、要するに漸減傾向にあって、しかし特にその中で問題は、活動人口があまり増えないと。しかし高齢者の中にも元気な人はいると。色々議論ありましたが、しかし人口問題として全体としては、ただいま木ノ本委員からご指摘ありましたように、長期的に見てどうあるべきか、そのためにどのような施策が必要か、ということが根本に近いのではないかと。そのことがまた、総合計画を立案する上で非常に根本的なものであろうかと思っておりますので、ひとつ人口問題についてどうかと、今までご発言のない方からも、きょうはせっかく来ていただいたので、みなさんに口が疲れたくらいしゃべっていただきたいと思うので、どうぞ。

#### 【北之橋委員】

私の提案する人口問題は、計画的にどのように増やすとか、生涯学習でどのように、子供たちの教育によって、それを目標として、市の中に参画して来るといった目的ではなく、今、谷口委員が申されましたその続きと、寶楽委員の、若い委員さんがこれから住みやすい町にするために、私がほんのちょっとでもこの定着率を願ったらいいなという提案に、河内長野は文化の宝庫というのは皆さんもご承知ですし、掘り起しにも限界がありますが、その掘り起こしの中で、まず高野街道に、三日市なら三日市の三の日に灯りをともすということを私は前から提唱しております。河内長野の地場に竹林がたくさんあるので、その産業とか山林とかの天然の資源を利用して、それにどういう灯のともし方をするのかは、私も案がございしますが、今はそれは控えるとしまして。高野街道の住民、街道に面する人たちを巻き込んで、その地域で光をともし、その地域しかない、その場所で結婚式を挙げたいと思っております。言ってみれば観心寺で、お仲人になってもらう人が、その、楠木公さんの中心人物であるとか、その中のどういう人物を自分の人生の出発の日に立ち会っていただくか、古い言葉でございしますが、そういう月下氷人が必要と思えます。

今の世の中では、若い人たちが勝手に決めた結婚式で、ハワイで挙げてきてビデオを見て披露宴をするというような、ホテル産業とか、そういう産業に依存しているように、それに若者がうまく乗っかっているような施策をとられているように思います。だから河内長野の山紫水明のよい場所、それは若人が自分達ふたりの間で計画立案して、河内長野から人生の出発をしていただいて、僕たちがこ

ういう素敵な結婚式を挙げたのだから、そこで住んでみないかというふうに、その自分達の出発点が人生の一番の起点になるような町に。それが遊と町と教育と、3つが合体すると思います。だから結婚式云々はやっている市もあります。現に妖怪のゲゲゲの鬼太郎のまちなどは、仲人になる人がそれぞれの妖怪に扮して、結婚式に関係のないまちの人までが、色々集まってその人たちの結婚を祝福する。だから河内長野には神社仏閣お寺がものすごくたくさんありますので、そのへんの、やはり生まれた時はお宮さんで生を得たよろこびを皆で寄って分かち合う、そういう素敵なまちから人口を増やす何かの礎にすればよいと思っております。

【福井部会長】

楠木公さんの中心になる人に仲人をしてもらって...

【北之橋委員】

まあ、楠木公さんと奥方の扮装をして、それはどなたでも構いません。扮装した市長さんでも。そういう関係で月下氷人をしてもらって、若い人たちがここから出発して、ああよかったなという意義ある結婚をしてもらってそこで住んでいただくというふうに。そんなプランがあっても河内長野の、これから10年、20年の長期プランですので、本当の地に足のついた結婚式を私はやってもいいと思っているのですが。

【福井部会長】

ただ今のお話は、要するに河内長野市の特色を出した結婚式を立案せよと。

【北之橋委員】

結婚式をやりながら定着を。いえ立案ではなく、そういうことも、観光と商業政策と色んなものを、私の言った事は含んでいると思います。

【福井部会長】

もう少し増やすと、河内長野市で結婚式を挙げた人には色々なメリットがあると言うのもつける。それで結婚式をしてしかも河内長野市に住む人にはこういう特典があるとか。

【北之橋委員】

それはその政策であって。

【福井部会長】

そういうことをもって人口政策に寄与せよと、こういう。

【大田委員】

人口問題については非常に多種多様でして、私が思うのはまちの性格によって若い人が来るのか年寄りがあるのか生産人口があるのかが決まっていくのではないかと。だから今おっしゃっていただいているようなことだけで若い人が来るのかと。またこの議論の前に行った、河内長野の性格付け、こ

れとの関連が非常に強いので、先ほどの議論で言えばだいたいちょっと牧歌的な方向に動いているわけです。そうすると、たぶん来られる方々は生産人口の年齢の高い層、そのへんが非常に多くなっていくだろうと。だから人口を増やすという考え方ではやはり、年齢層を考えながら議論する必要があるのではないかと、その中で、ではどんな策が出てくるかということであろうかということかと思うのですが。

#### 【福井部会長】

もちろんそうですね。人口の年齢構成というものは人口問題には根本ですので。まだご発言されていない方も別に人口問題に限らないのですが、どういうことでも人口問題には関係があると思われまますのでおっしゃって下さい。

#### 【馬場委員】

年齢層と言いますと、結局は子育て中心の年齢が、長い目で見て定着してくださるのが、私達の年代では一番ありがたいと思うのです。そうすると教育施設なり学校環境だと思うのです。私は公立の学校が色々な意味でバランスがとれて、理想的な学校だと思ってきましたので、私学を誘致するというのはある意味で手っ取り早くていいかも知れないのですが、やはり今地元にある公立の学校がもう少し落ち着いて、最大の注意を払っていても色々な問題は起こると思うのですが、やはりその所の、先生の問題とか、先生だけではなく母親の問題もすごく大きく影響するので、そういう意味で総括的に、子育てする母親なり学校の先生方なり、ある意味行政なり、そのバランスが取れば、私学へ私学へという方向もちょっと止まると思いますし、市にとっても、市民のこれから子育てするファミリーにとっても理想的だと思うのでそのところにちょっとした注意点があるのではないかと思います。

そうは言いましても河内長野には魅力的な小学校がない、中高はあるんですが。行かそうと思うとやはり大阪市内に出ないといけない。小学校の私学が出来たのですが、そこまで行かせる手段が皆さん不安ですので、そこですごく悩んで足踏みしておられる方がたくさんおられます。そういうひとつは小学校の、小中高の一環というような学校ができる事も大きなことかなと思います。でも人口が減っていくのに学校を作るのはなかなか大変ですので、やはり今ある公立の小学校をてこ入れしてでも頑張るって教育問題を解決してゆくのが、人口問題を解決していく、増やすなり(減少を)止めるなりのポイントじゃないかと思います。

それと、先ほどの観光行政をしてコミュニティを図るということから、谷口委員がおっしゃいました。色々公民館の手作り作品があるのに埋没しているからそれを何とか産業に活かしてということから、私は色々なところの観光、神社仏閣もあるのですが、そこのお土産が出来ないというか、河内長野の特産品がすごく少なくて、せっかく来て下さっても爪楊枝を買うにもお店がないんですね。私もお友達に差し上げるのに工場まで行って、もらったことがあるのですが、河内長野には爪楊枝しか見つからないのです。それで今ものすごく色々な主婦の方とかが、手作り品にしる、この環境ですから蔓を編むような作品にしる、色々なものが出来るのですが、観心寺に行く道すがらに置いてあるとか、その程度の物しかないのです。産業発展の意味では、それを、今の若い方なりが技術的にも結構進んでいても、それを発表する場がない。公民館で作ってもまあ、お友達に差し上げたりという位のことです。その底力みたいなものを駅前、観光資源がない、門前的なものがないとおっしゃった意

見にも絡めましてね、お土産を地域の産業として、やはり観光のまちというのであれば、お食事する所とお土産が充実すれば、やはり自然で遊んで帰りはそこで食べて、お土産を買って帰れる。そういうものがあれば、大きな意味での産業発展にはならないのですが、河内長野駅前が充実するとともに、そういうものが来れば女の方は何か買いたい思いがすごくあるので、今色々な意味で経済を支えているのは女の力が強いので、駅前開発に絡めまして、河内長野の特産品とか、地域性のあるお土産、それにまつわる飲食店、もう一つ望めば宿泊所も出来れば、結婚式をしても、ホテル等がなければ、披露宴する所がない。そういう意味で、少し総合的なものがあれば、もう少し皆さん来て下さって、「日帰りで帰らないといけない」ではなく、楽しんでもらえるような、せめて2泊くらいしてあちこち行って帰れるようなものが出来てくれば、ある意味で産業の発展にも関わり、そういう楽しい雰囲気になれば、子育てもまた、やってゆこうというふうな意識に変わっていただけるのではないかなと思います。

#### 【福井部会長】

ありがとうございました。最初のご指摘いただいた、河内長野市における公立学校の問題とは、要するにどういうことなのですか。どういう点が足りないのですか。

#### 【馬場委員】

今、小学校の問題は河内長野市だけの問題ではないと思うのです。大阪府なり、日本の国全体の問題だと思うのですが、やはり子ども達が落ち着かないのですね。勉強しない。親は学校に任せればと思って出すのですが、うまく機能していなくて、授業が成立しなかつたりということで。結局は、一昔前の子どもとちょっとタイプが変わってきている。というのは子ども達だけの問題ではなくて、やはり社会環境の問題だと思っているのですが、親はやはり勉強をさせて力を付けて社会に送り出したいと思うのですが、一番基本となる小学校の段階からして、今まで中学校が荒れていると言いましたが、今は小学校も、うまく授業が成立しないという問題も割と聞きますので。そうなると母親は、そこへ6歳の子を入れるというと不安感があるのです。そこはやはり先生の力と父兄の力と、学校サイドで何とか守って行かなくては、もうここに任せるのは不安だからがんばって私学へとなる、そうなると母親はパートタイムをしてお金を何とかとなると、そこにまた空洞が出来ていくのですね。母親が家庭に帰れとは言いませんが、見てあげる時期はすごく大きいから、そういう意味でやはり地元で育て上げる環境を作っていないことには、やはり手っ取り早く経済的に裕福な方は市外へ出て行くということになると思うのです。すると家族が引っ越してしまうという事にもなりますし。

#### 【福井部会長】

他府県のことまではようやらんけれども、とりあえず河内長野市だけでもそういう状態を解決するためにはどういうことが必要だと考えられますか。

#### 【馬場委員】

それはまだうまく見つからないのですが、私は若い先生方だけの力ではちょっと。30人学級、25人学級と言いますが、やはり子どもがすごく個性的に育てあがっていると思うのです。そういう意味で思うのは、60歳なり65歳以上の、知識もしっかりして意識もある方がどんどん今から出ますよね。

そういう方たちに副担任のような形で、肩書きもないと誇りのある方たちです。先生はある意味今お若いのです。ですからサポート的に、今までなら家に帰れば両親がいて祖父母がいる家族関係でした。今、個になってますので、両親がいて子ども達です。両親はお父さんは働いて、お母さんもひよっとしたらパートに出ていて、孤立した子供がだんだん増えているのです。だから学校にも昔の家庭のよさを生かして、学校に行けば何か話せるおじいちゃん・おばあちゃんがいる、そういう方が1クラスに、先生をサポートする形でいてくだされば、先生は忙しいけれども、そこにいつもいてくれるおじいちゃん・おばあちゃんの年代の方に子供が自分のことを話せるような環境になるのではないかと思います。先生のプレッシャーにもなりますので、絶対カリキュラムなりには口は出さない、でも子供の拠り所として、「僕のクラスにはこんな先生がいるねん」という形で、60歳以上の現役を退かれた方が副担任みたいな形でいて下されば、先生に言えないことも副担任のおじいちゃん的な方にちょっと自分の気持ちを委ねることができる、そのようにしていけば少し、子供達も落ち着けるのではないかなと思います。

【福井部会長】

この問題を公立と私学に分けて考えると、私学ではある程度そういう面のケアがされているのですか。私学でも同じですか？

【馬場委員】

それはちょっとわかりません。ですが私学は、教育意識の高い親が行かせます。だからある意味そういうふうなサポートは万全、いえ現実には知りませんが、とにかくお金をかけてでも教育したいという意識の高い方が行かせます。だからそのへんまでは精神的な淋しさとかは、今の公立学校よりは少し改善されていると思うのです。それはまたある意味で弊害が多くて色々な事件になるかも知れませんが、ある意味でそこまでいかない、父は働いている、母は忙しいという状態で公立へ、もちろんそれが歩いていける距離なのでから理想なので、私はその教育を一番大切にしたいと思うのでね、そこでもしも授業が成立しないのであれば、そういうサポートに入ってもらって、1クラスを3人なり4人体制で守っていけば、子ども達はちょっと精神的に落ち着けるのではないかなと思います。

【福井部会長】

ご提案は要するにおじいちゃん・おばあちゃん世代の学校教育へのボランティア的参画ですね。

【馬場委員】

そうです、ボランティアという形で。

【福井部会長】

そうでないとお金がないですからね。はい、どうぞ岩本委員。

【岩本委員】

私も当初から発言しておりますように、やはり長いスパンでものを考えるのに教育は大事だと思い

ます。私も専門家ではないのですが、馬場さんのおっしゃったこともひとつの手法だというふうに考え共感致しました。

人口の問題ですが、やはり我々住んでいる人口が必ずしも一日中いるわけではなく、昼間人口が河内長野には非常に少ないと言われております。そういうことの補充、補完のために他市から観光のために来てもらうというのは大事なことだと思います。河内長野にはずいぶん名所旧跡があるわけですが、ホコリをかぶってそのままになっているという感じがあります。それも広いこの土地に点在しているので、なかなか点と点が結びつかないということでありまして、どのようにしたらそういう観光のしやすい線で結び、また面に持ってゆけるかということになるかと思っております。そういうことで先ほどの高野の旧街道を復活させる場合、商工会の仕事になるかと思うのですが、そこに点在している空き店舗をうまく利用していただくように働きかけるとか。

また河内長野市には、サイクルスポーツセンターがある。昔、我々が若いときに話していたのですが、あのサイクルスポーツセンターまで河内長野へ来る観光客を誘致して、そこから点と点である観光場所を自転車で、移動してもらおうやないかと。幸い、一番高いところへ持ってくればあとはほとんど下りなので、非常にスムーズに移動もできる、お土産を売っている、道の狭いところにも入って行けるというようなことで、三日市なり河内長野に集まった自転車をまた持っていくというふうに、移動の方法を自動車やバスだけでなく、歩ける人は歩いていただく、もう少し距離を長く移動したい時には自転車を、河内長野の名産としてあるわけですから、自転車を利用していただく。もちろんそれなりの整備もしていけないといけないわけですが、ひとつこれを長期的なスパンで考えて、そういう方法での観光客の誘致というのもやっていただければ、昼間人口の減少がある程度止められるのではないかというふうに考えます。

【福井部会長】

はい。ここでちょっと特産品の話を傾聴したいと思うのですが、私が知っているのは爪楊枝と天野酒だけなんですけど、他にどんなものがありますか。

【大田委員】

スタレがある。竹スタレですね。

【福井部会長】

竹が多いのですか。

【大田委員】

多いですね。

【木ノ本委員】

最近、ちょうど 30 年くらい前に全部枯れてしまったのです。竹は 100 年に一度花が咲いて枯れるのです。

【福井部会長】



なぜですか。

【木ノ本委員】

いえ、それは自然現象です。

【福井部会長】

それを総合計画に書いたらどうですか。そろそろ竹が枯れる頃だとか。

【北之橋委員】

それと、線香のいいものが作られているのですけど。天然の。それも本当に知っているものは知っているだけだね。コマーシャルで流されているような線香は化学の香料を入れているので、日にちがたつとすぐに消えるのですが、河内長野のずっと続いている線香屋さんは天然の香料を差し込んでいますので、10年、30年、50年たっても消えない。素晴らしい線香を京都のお寺さんや高野山とか色んな所に卸されているんですが、産物として知らないのがちょっと残念です。私は河内長野を出る時は軽いお土産として必ず線香を持って参ります。

【福井部会長】

それはどういうところで作っておられるのですか。

【北之橋委員】

工場があります。細々と家内、それこそマニファクチュアです。手工業で細々とよい香料を、外国の中近東からも、今は伽羅などはなくなりましたが、沈香など、本当に貴重で、一粒わずかでも50万、60万という時代で、それが入っている線香は家の中において香を焚くよりも素晴らしい香を発します。私はお正月に、また朝を清めるのに沈香のいいお線香を焚いたりするんですが、そういうすごい線香屋さんがあるんですね。

【福井部会長】

次回の当部会議の会場にはその香を焚いていただいて。

【北之橋委員】

一度持って参ります。ちょっと清めて。

【澤口委員】

先ほど話の出た水車の話ね、その水車で杉の粉を粉碎しておられた。水車が今でも残っておる。線香の素をね。

【福井部会長】

そういう動力だったわけですね。

### 【北之橋委員】

それに付随する発言ですが、私達文化連盟に共同研究会がございまして、3年ほど前に文化祭の中で「水車知ってはりまっか」というのをやったのですが、私の祖父、三日市のサカノトウイチロウと言う人間なんです、その人間が水車を直させたら南河内一の職人であったということも、私は共同研究会のムクモトさんという人に聞いて、初めて自分の祖父のそういうことを知りませんで、恥ずかしい思いをした記憶もございまして。

### 【大田委員】

特産品のことですが、特産品というものを特別また新しく作ろうということになるとですね、2つのことが必要だろうと思うのです。ひとつはそういうものを買いに来てくれる人、それがどんな形であろうかと。そのターゲットに合わせた形でないと駄目だということ。もう一つは、現在河内長野で新規事業はあまり起こっていないわけですが、特産品を作る場合に、皆さん作って下さいと言う呼びかけだけでは駄目だと思うのです。岐阜県の明宝村、今郡上市になりましたが、明宝ハムやケチャップが全国的に有名になっていますが、そういうものは、役所がいわゆる補助金を引っばってきて、地元の人たちにそういう工場を作らせて、今、第三セクターで運営していますけれど、そういうことによってその特産品が出来ていったわけです。そういう姿勢が市の行政の中にあるかどうかですね。だから、そういうものを呼びかければ現在の河内長野市のボランティア団体が81ほどあります。どれかがやります。市としてそういうものをやりましょと、どんどん呼びかけるかどうか。その点が大事だろうと。教育でも同じですが、教育特区として特別な事をやろうということを出せば、色んなことが出てくるだろう。どうもそういうものが現在の行政の姿勢の中に、別に特別なことをしなくても現在のままでいいよというふうに見えるのが、新しくそういうものが起こってこない理由ではないかなと思います。

### 【福井部会長】

はい。特産品のことで、私この間、あれは富田林市になるのかな、小高い山の上を車で走っておりましたら、竹で炭を作るのですね、「竹炭工房」という看板が出ておまして、竹で炭を焼く小屋でもあるのですかね。竹炭というのは、よいものなんですか。

### 【北之橋委員】

最高の木炭の100倍くらい吸収率がいいです。普通の備長炭を私はご飯の中に入れて毎日炊いておりますし、色んなものに、活性の自分の家の中の臭気を取るのに、炭の長いのをデザインして居間に飾ったりはしておりますが、竹炭というのはその100倍に倍するような、粒子が細かくて吸収率はとてもいいです。だから今、竹炭を細かく練って、歯磨きに練りこんだり、健康産業として、千差万別、ここで羅列しきれないくらいあります。

生活の臭気を取るにもとっても良くて、だからこれから老人パワーのね、老人はどうしても皮膚の活性化が衰えますので、私は皆さんに、老人臭というのは横を通ってもイヤだと若い人たち、一緒に住んでいる人たちがおっしゃるので、その老人の部屋に竹炭なり、炭をうまくデザインして、昔の火鉢のようなものをガラスとともに相俟ってデザインする、そういうことを私は個人的に進めて、そのゆえに私の花のフラワーデザインでさせておりましたが、そうしたらお年よりのお部屋も入った時に美

しく、匂いがよく、老人と仲良く住めるのではないかとこののではないかと。私は3世代(世帯)住んでいただくことが、3世代、なお、4世代住むことが人生の一番美しい住み方とっておりますので。

【福井部会長】

竹炭というのはそうすると、高級な品物ですね。

【北之橋委員】

焼きにくい代わりに、出来上がれば素晴らしいです。温度管理とか出来栄えが相当難しいらしく。千早赤阪村の私の友人もこの間、竹炭で産業を興すようなことのプロジェクトチームを私に相談してありましたが、もう少し検討して、焼く窯が高いからどうしようとかね。そんなことをする前に自分で実体験してやってみたらというようなアドバイスをしておきましたが。昔は滝畑で、私も35年前に入江トクロウさんという人の6時のニュース番組に私も炭焼きに出演したことがございます。実際に炭を切って、その中の窯に入れて、マツダさんという窯でしたが、そこにクヌギの木を挽いて、並べて出してという3日かかりで毎日の6時の放映の時に私が生出演した経験がございます。河内長野も炭の宝庫です。

【福井部会長】

北之橋委員はその後、続けておられないのですか。

【北之橋委員】

私は炭というものは、今でもこの場で言うのもおかしいですが、カンテキとかそういうもので、サンモ遠赤外線光線で、私はグリルで焼いたことございません。必ず炭火で焼き、お正月の睨み鯛も私は外で必ず炭火で焼いています。煉瓦でU字溝を作りまして。だから私の家に炭は何百キロも持っております。いつでもちょっと炭の要る方は言って下されば。

それと観心寺で野外能をやりました時にも、能の鼓の演者には湿度の関係で必ず炭がいるので、その炭も14年間きっちり私自身で補給して参りました。炭も特産物で。

【福井部会長】

なるほど、総合計画審議会というのは勉強になりますね。こういう例もあるのですから、大田委員からあったように行政の何らかのテコ入れが必要だと。

【坂部委員】

部会長がおっしゃるとおり、勉強になりますね。それにつけても郷土史というようなもの、観光施設といったもののボランティアの案内人、少子高齢化がますます進みます中で、そういった人たちの元気さを活用するといえますか、その意味でも案内人というか、それはボランティアで、完全なボランティアというよりも若干の有償のボランティアといった制度、案内人の登録制度をつくってそれを活用するのも、人口問題を含めて、有意義ではないかなという感じが致しました。

それと先ほどの「ゲッカヒョウジン」とはどんな字を書くのですか。

【北之橋委員】

月の下の氷の人です、お仲人さんのことです。四字熟語でそういいます。

【福井部会長】

月の下の氷の人で...なんでああいうことになったんでしょう。

【北之橋委員】

昔からお仲人さんのことをそういいます。

【福井部会長】

ぼくら位の若い者にはわからないと。

【坂部委員】

わからんと言った方がいいわけですね。どういう語源でこういうことになったのですか？

【北之橋委員】

そこまでは。昔から判っている範囲内で言うておりますので。また調べておきます。

【福井部会長】

月下氷人の件は次回までの宿題で。

【大田委員】

ちょっとすみません。先ほどの竹炭のことなのですが、私を知るだけで30くらい、全国で200くらいの町村でやっています。確かにおっしゃるように非常に性能のいい炭です。作っている人は感動しているのですが、それが備長炭のように大きく出荷されていることは今はないのです。小さい、せいぜい有限会社くらいのところが皆さん作っています。それが言いたいんじゃないのですが。そういう特産品を作るのは、部会長のおっしゃるように、行政的なバックアップ、市民的なバックアップがなければ産業にならないと思うのです。やはり特産品としても、単に有名であればいいのではなく、経済的に成り立つような産業でないと駄目だと。そこまで持ち上げるためには、行政のバックアップが必要なのではないかなと。

【福井部会長】

なるほどね。その行政のテコ入れもさることながら、何百箇所でもやっても大量生産をしないというのは、そういうマーケットというか、大量購買者層がわからないと。

【大田委員】

いえ、例えば備長炭ですと、一応焼肉とか炭焼きの飲食店で、あるいは料亭の形でいわゆる流通先がはっきりしていますね。そこでどれだけの量があるかわかっていますね。で、竹炭を代わりに入れ

るかと言うと、竹炭は割合備長炭より早く消えますのでね、薄いですから。

【福井部会長】

火力としてでなくその、臭い消しといいますが、環境浄化の。

【大田委員】

いえ、例えばお茶で言いますと、今のお茶の家庭消費は少なくなっています。ですが、ペットボトルの需要が非常に多いおかげで、お茶の生産業界は潤っている。同じことが、そこにあればいいのです。お茶の中に竹炭を入れるとか、何かの中に入れるとかというように、需要先がはっきりしていれば、そういう産業というものが明確に出来上がってくるだろうと思います。

【中谷委員】

昔はクヌギがほとんどだったのですよ。今は植え替えまして、スギ・ヒノキになってますけれど、昔そのあたりクヌギ林だったのです。4、50年たって林相が変わりましてね。その頃は方々で炭は、私の村にもあなたの村にもあると、たくさんありました。私の山、あなたの山、それぞれの山に窯をつくりまして、毎晩見張りをして、出てました。それはものすごく持ちがいいし、よくあったのですが、たまたま木替えをしてしまって、なくなったのです。

だから今私が知っている範囲では、滝畑にも炭があります。岩瀬でも、そこでもやっております。やはり一番いいのは池田炭といひまして、能勢の方の菊炭なんです。菊の御紋のような。これはお茶席で、いわゆる有名なお茶の宗匠のところへ行くわけです。

【福井部会長】

三千家とか。

【中谷委員】

そうそう、そういう所へ菊炭は行くわけです。この河内長野でも菊炭が出来た時がありました。

【福井部会長】

その菊炭の材質は？

【中谷委員】

クヌギでなくて、ナラか何か、ちょっと違うと思うのですが。現物はまだ見ていません。これからやります。能勢の方でやります。実際にうちの豊能支店で、これから試作してきます。挑戦して来ますので、また出来上がったからお見せしますけれども。

【岩本委員】

ちょっと蛇足になるのですが、実は私40年前に結婚したのですが、その時先方に反対されました。何で反対されたかという、「河内という所はガラが悪いやろ」と言われまして。女房は京都に住んでいたのですが、河内長野という名前だけで反対されたことがあります。河内長野ということはどう

かという、やはり私の地元とか特に新興住宅のまちでは、住んでみたらそんなことないやないかなるのですが、最初食わず嫌いで、第一印象としてえらいガラが悪いのではないかと、河内長野というネーミングで損をしているところがあるのではないかと。私はわからないですが、他市から越されてきた方、越される前にまちの名前について何か憶えておられたら教えていただきたいですが。

#### 【谷口委員】

はい。私散々言われましたので。まず河内弁発祥の地。「オンドリヤー ナンジャー」というのね。河内のおっさん。で、田舎、しかもドイナカ。山こえ谷越え。河内長野に住んでますと言うとね、「それはまたご遠方から！」と京都など直線距離で近いのに、どこにあるのかわからんと。そんなイメージが一般的ですよ。

それと今言われた、河内というのはマイナーな形で捉えられている。おもしろいとかはいいんですけどね。それに関して対応策というのは、やはりイメージアップ戦略だと思うのです。これは時間がかかるとは思いますが。新聞で、ああ、それと事件事故、テレビに出たと思えば河内長野だとかね。割に多い感じがしました。最近の11月9日の読売ですが、「財政再建、カギは人件費圧縮。豊中市、職員定数4年で580人減。粗大ゴミ収集も有料化」、これが一つ。「摂津市、技能職員採用せず。一般・専門も4割減」と。豊中などはまちづくり方面でとてもいい、豊中方式というのがあるのですが実際は火の車なんですね。経常収支が100%越えるという、すごい危機的状態ですね。ああ、ここも苦戦しているというイメージと共に、河内長野が出ている！と思ったら、「河内長野市、民営で再出発」あれですね、「無償で譲り受け宿泊施設として存続させることを決めた」。これは前向きのイメージですね、河内長野にもいい宿泊施設が出来るのだろうなという期待ですね。それとこれは11日、「河内長野市市政50周年、国宝重文10点公開」と、「この市内には、都道府県単位の所有点数に匹敵する6点の国宝と76点の重文があり」と、これはものすごくいいキャッチフレーズになると思うのです。「都道府県単位の所有点数に匹敵する」、まあ奈良、京都に比べたらあれでしょうが、地方の県に相当する国宝や重文があるという、これはイメージ的にもものすごくいい受け止め方が出来ますよね。こういう記事をたくさん増やしていく、とにかく小さなものでも、市長がベストドレッサー賞をもらったとか、そういう前向きの明るい話題がたくさん出れば、河内長野ってそういうまちではないのだなというイメージがインプットされていくと思うんです。

そういう面で、どこに住んでいても事件事故は起こるのですが、それに勝る、事件事故が3割とすれば7割がよい所とかおもしろい面があれば、そういうものがあれば消えますからね。今だと、河内長野だから起こるという感じですよ。神戸なり宝塚や芦屋でも事件事故は起こってるんで、そんなに違和感はないですよ。「ああ宝塚でも起こっているのか、芦屋でも起こる」と。ですからイメージアップ戦略というような、こんなのは行政なんかでも出せるのですかね。多少しつこい位でいいので、そういうルートを使ってイメージアップしていくのが大切だと思うのです。

#### 【福井部会長】

はい。河内弁なる問題は河内長野に限らず、河内地域、北・中・南河内とありますが全部に共通する問題ではないかと思うのですが、岩本委員の言われた、河内に「長野」がついたのはどういうわけか、ご説明をいただきたい。

【大給企画経営室長】

長野県長野市があるので、もともとナントカ郡長野町というのを、それを29年に市政施行をして、「長野市」だけでは具合が悪いということで。

【大田委員】

私ある酒屋の方と、もう亡くなった方ですが、お話した時に、そこもナガノという地区なんです。その人のお話では、ちょっと調べてもらわないとわからないが、アイヌ語でナガノとは水の湧く町、水が流れる町、という話があったと言っていた。私自身もそういう言語の方はわかりませんので問題あるかも知れませんが、そう考えますとこのナガノも水の湧く町ですし、長野県ではなしに、群馬県のナガノハラ、軽井沢の裏側もちょうど同じような所ですし、長野市もたぶんそういう流れがあるし。そういう水が湧くというような意味合いがあるのかと。信州長野でそんな話は聞いたことがないのですが、別のところのナガノ地区の話です。河内長野ではなく他所の、市町ナガノですがね。

だから「ナガノ」という言葉がついているのは、非常に地区をよく表しているのではないかと私は思っています。

【福井部会長】:

市政施行前の長野町は、なぜナガノ町という名前になったのでしょうか。

【大給企画経営室長】

明治から長野村というのはあるのですよ。

【北之橋委員】

だから私達子供のころは、大阪府南河内郡三日市村大字北三日市、三日市にも大字・小字がついたのです。だからここは大阪府南河内郡長野村です。長野村には6村があったわけです。高向村とか、あなたこじゃなくて、古野町とか、原とか石坂とか町が6つに分かれてまして。

私が一番思いますに、河内という言葉が、みんな河内を総称していて、うちは南河内なんです。南河内を北河内の八尾とね、八尾は全く迷惑していないのです。私いつも憤りを感じるのですけれどね。あの、河内音頭は私達子供のころはなかったんです。私達が村で、きょうは盆踊りだと言ったのは、江州音頭なんです。「ヨイトヨイヤマツカドッコイサノセー」なんですよ。「イヤコラセーナントカ」というのは、あちらの八尾から出た河内音頭なんです。それといっしょくたにされて。

それと、今東光がね、河内の朝吉を書いた、「悪名」という題名で。勝新太郎と田宮二郎とが名コンビでシリーズがあって、軽快ないい映画でね、河内のおっさんの「オイコラ...」とかいう台詞が日本中を風靡して、それが河内長野の河内に通じて、現の八尾が何もイメージ悪くない。本当は向こうが河内音頭なんでね。

この際、第4次総合だったら、河内長野の「河内」をもう少し美しい、長野というものを残すなら、岩本委員も発言しているように、私達で何か素晴らしいネーミングを考えてもいいんじゃないでしょうか。

【馬場委員】

まったく岩本さんのおっしゃるとおりなんです。だから大阪狭山市が、「河内狭山市」を提案していたけれどもあちらを取られましたのは正解だと思いました。いいイメージがあります。でもやはりなじんでらっしゃる方がおられるのに、名前を変えるのはどうかなと思うのですけど。

【福井部会長】

法令上、市の名前を変えるのはどうすればいいのですか。

【大給企画経営室長】

今、ちょっと勉強勉強不足で また答えは。

【福井部会長】

ではそれも宿題ということで。

まあ総合計画のイメージづくりというときに、どう表現するかという時にやはり、市の名前というのは非常に、「ナントカふれあいの河内長野」などと必ず市の名前は付くわけです。ですから、長いなあという捉え方、3文字、もう1文字減らしてはどうかなと前から考えていまして。私のイメージでは信州長野という所は非常に教育の熱心な所なんですね。だから長野が付く都市において教育の問題は普通プラスの方向へ動くように考えておったことがひとつと。

それから千代田という駅、地名がありますね。まあ、畏れ多い名前なのです、やんごとなき地名なんです。「千代に八千代にさざれ石」の千代ですから。それと関係があるのかないのか、わかりませんが、私の勝手な仮説では、ここは南朝発祥の地ですから、要するに京都の御所に匹敵するものが関係あるのかと思ったりもしているのですが。これも勉強不足でわからないのですが。

いずれにしても何か優れたもの、名前とはだいたい悪い名はつけないものですからね、そういうことを我々ももう少し勉強して。

【中谷委員】

しかしこの辺はもともと、膳所藩でしょう。近江の。(だから江州音頭...)

【福井部会長】

少々歴史の学習が過ぎたようで...私もガラが悪いとか、ガラの問題では非常にしゅんとなりますのでやめたいと思います。

このへんで本日の審議はこれまでということに致しまして。次ですが、こういうものが皆さんのところに、全体としての構想でございますが、3回目の...参考までに我々の部会は第2の部会ですが、第1部会が12月5日、第3部会が12月12日、に同じ場所で行われます。三つの部会が本日我々がやったような第2回の会合を行うのは、最後が12月12日に終わるわけでございます。

次回は12月18日土曜日。